

入札について

**問** 入札に参加する事業者は適正な評価のもと選定されなくてはならない。また入札は、公正な物

④プロポーザルについて何う。これまでどのような物件があったのか。一般（指名）競争入札とどのように区別しているのか。

提案の評価は誰がどのように行うのか。価格競争より不明瞭ではないか。今後予定される物件はあるのか。

う大前提のもと、幕別町発注の事業は一般競争入札・指名競争入札によりこれまで、適切に業務を遂行されてきた。

以下について伺う。

①指名選考は誰がどのようにするのか。

②最低制限価格設定があるものがあるがなぜか。

③特に設備等に不具合が生じた場合、事業者・メーカーに責任を持たせているのか。

かし担保が2年ということだが、インターネット事業等で万一のことがあったらどうするのか。

合に、最低制限価格を付して入札を実施している。事業者への説明については、当然、最低制限価格を設けて入札を行うことで案内しており、相手には当然通じている。今後この制度の趣旨を、機会があれば説明したい。

③契約を交わす際、かし担保責任を定め契約している。

故意あるいは過失による損害なのかの判断は非常に難しいが、法的には問題がなく、それを立証することが難しい場合があり、そういう意味を十分踏まえながら今後も対応する。

④過去には、札内スポーツセンター設計業務、百年記念ホール、保健福祉センターの設計業務、最近では、電算基幹システム導入に関してプロポーザル方式を取り入れている。

単に価格面だけで決められないものや、多方面からの比較検討を必要とするものに取り入れている。

提案の評価については、庁舎内に評価委員会を設置し検討を重ね決定を行っている。



プロポーザル方式により設計された百年記念ホール

おり、過去には、大学教授などの専門家を委員長にお願いし選考した経緯もある。

「価格競争より不明瞭ではないか」ですが、提案事項には「総事業費」も含まれ、総合的な観点から評価が行われ、透明性が確保されている。

今後の物件については特に予定していない。

本町においても協働のまちづくり支援事業を開始し、それぞれの公区において積極的に取り組みが始まっている。公区の皆様のご尽力に心から敬意を表します。

この協働のまちづくり支援事業をより充実させるために、併せて個人・企業・団体が気軽に参加出来る仕組みとしてアダプトプログラムを導入し、国も道も含めた官民一体の取り組みを行っているかと思うが見

アダプトプログラムへの取り組みについて

協働のまちづくりの形として、アダプト

**問** 協働のまちづくりの形として、アダプト

プログラムによる取り組みを行っている市町村がある。帯広市は平成13年より、新しいまち美化事業としてエコフレンズ・クリーンキャンペーンバス21を始めた。この事業は、地域の方々が自分の住んでいるエリアの里親となり環境美化活動をボランティアで行っている。その後上士幌町なども同じような内容のアダプトプログラムによる事業を開始した。

また、札幌土木現業所では平成15年より、清掃美化中心だった活動から、新たに道路・河川などの植樹や維持管理を含めた取り組みが始まった。

本町においても協働のまちづくり支援事業を開始し、それぞれの公区において積極的に取り組みが始まっている。公区の皆様のご尽力に心から敬意を表します。

この協働のまちづくり支援事業をより充実させるために、併せて個人・企業・団体が気軽に参加出来る仕組みとしてアダプトプログラムを導入し、国も道も含めた官民一体の取り組みを行っているかと思うが見

今後、開発局や土木現業所とも連携をし、多くの方々が気軽に参加できる仕組みづくりを検討をしたい。道道整備を、町がお金を出して整備することにはならないが、今回、道路にある花壇の一部に公区の方々が花植えを行い、その花の苗の代金を協働のまちづくり事業の中で対象にした。これについては、厳しい財政状況の中、なぜ、道路の花壇に町がお金を出すのかということになるが、一面では地域の方々の、身近な生活範囲の中にある花壇を、町の施設あるいは町道と一緒に実地を、お許しをいただきたい。

今後、開発局や土木現業所とも連携をし、多くの方々が気軽に参加できる仕組みづくりを検討をしたい。

道道整備を、町がお金を出して整備することにはならないが、今回、道路にある花壇の一部に公区の方々が花植えを行い、その花の苗の代金を協働のまちづくり事業の中で対象にした。これについては、厳しい財政状況の中、なぜ、道路の花壇に町がお金を出すのかということになるが、一面では地域の方々の、身近な生活範囲の中にある花壇を、町の施設あるいは町道と一緒に実地を、お許しをいただきたい。

今後、開発局や土木現業所とも連携をし、多くの方々が気軽に参加できる仕組みづくりを検討をしたい。

道道整備を、町がお金を出して整備することにはならないが、今回、道路にある花壇の一部に公区の方々が花植えを行い、その花の苗の代金を協働のまちづくり事業の中で対象にした。これについては、厳しい財政状況の中、なぜ、道路の花壇に町がお金を出すのかということになるが、一面では地域の方々の、身近な生活範囲の中にある花壇を、町の施設あるいは町道と一緒に実地を、お許しをいただきたい。

今後、開発局や土木現業所とも連携をし、多くの方々が気軽に参加できる仕組みづくりを検討をしたい。

道道整備を、町がお金を出して整備することにはならないが、今回、道路にある花壇の一部に公区の方々が花植えを行い、その花の苗の代金を協働のまちづくり事業の中で対象にした。これについては、厳しい財政状況の中、なぜ、道路の花壇に町がお金を出すのかということになるが、一面では地域の方々の、身近な生活範囲の中にある花壇を、町の施設あるいは町道と一緒に実地を、お許しをいただきたい。

今後、開発局や土木現業所とも連携をし、多くの方々が気軽に参加できる仕組みづくりを検討をしたい。

道道整備を、町がお金を出して整備することにはならないが、今回、道路にある花壇の一部に公区の方々が花植えを行い、その花の苗の代金を協働のまちづくり事業の中で対象にした。これについては、厳しい財政状況の中、なぜ、道路の花壇に町がお金を出すのかということになるが、一面では地域の方々の、身近な生活範囲の中にある花壇を、町の施設あるいは町道と一緒に実地を、お許しをいただきたい。

今後、開発局や土木現業所とも連携をし、多くの方々が気軽に参加できる仕組みづくりを検討をしたい。

道道整備を、町がお金を出して整備することにはならないが、今回、道路にある花壇の一部に公区の方々が花植えを行い、その花の苗の代金を協働のまちづくり事業の中で対象にした。これについては、厳しい財政状況の中、なぜ、道路の花壇に町がお金を出すのかということになるが、一面では地域の方々の、身近な生活範囲の中にある花壇を、町の施設あるいは町道と一緒に実地を、お許しをいただきたい。

今後、開発局や土木現業所とも連携をし、多くの方々が気軽に参加できる仕組みづくりを検討をしたい。

道道整備を、町がお金を出して整備することにはならないが、今回、道路にある花壇の一部に公区の方々が花植えを行い、その花の苗の代金を協働のまちづくり事業の中で対象にした。これについては、厳しい財政状況の中、なぜ、道路の花壇に町がお金を出すのかということになるが、一面では地域の方々の、身近な生活範囲の中にある花壇を、町の施設あるいは町道と一緒に実地を、お許しをいただきたい。